

全体会午後の部Ⅱ

司会者 それでは、ただ今より全体会午後の部Ⅱを行います。まず後半1本目の意見発表です。藍住中学校3年、斎藤真生さん、「人権学習で変わった自分」です。よろしくお願ひします。

「人権学習で変わった自分」

藍住中学校3年、斎藤真生

私は、人権学習をしたことで自分自身を見つめ直すことができました。私が人権学習と出会ったのは、小学生の頃でした。その当時は「いじめ」問題が主な学習内容でした。でも、私はその問題を軽く考えていて、道徳の時間が一番暇な時間だと思っていました。



私は、当時から学校で、自分の素を出したことはありません。なぜなら、自分の考えていることや気持ちを人に知られたくないからです。だから、ずっと優等生を演じてきました。道徳の時間でも、思っていない言葉を並べて、先生にだけいい目で見られてきました。周りの人からは「優等生气取り」と思われていたと思います。家の中でも、家族の目は弟にいくので、私は1人であることが多くなりました。

そんな生活を送っていたので、先生からは「他の子どもたちと違って考え方が大人」とか「よくいろんなことを進んでやってくれる」というようなことを、少なくとも小

学4、5年の頃から言われていたと思います。自分が嫌だと思ったことも、先生に好かれようと思い、何でもこなしてきました。そんな自分は、周りからどのように思われているのかすごく不安でした。

でも、こんな私にも、少ないですが、友達もいて、中学校に入学する際にも「一緒にクラスになればいいな」と話をしていました。しかし、中学1年では、誰とも一緒にクラスになることができずに、私はさみしい思いをしました。

今、思い返してみると、中学1年の頃はどんな気持ちで学校生活を送っていたんだろうと不思議に思います。でも、みんなの輪の中に入っていけないという自覚がありました。クラスの人たちは、私に近づこうとする気はなかったと思います。すれ違ったときに悪口を言われたこともありました。

でも、2人だけクラスで仲が良かった人がいました。1人は、クラスが違いますが、今でも話をしています。もう1人は担任だった三木先生です。先生を「仲が良い」と言っていていいか分かりませんが、それぐらい他の子との会話がなかったということです。

その頃から、人権学習に興味を持ち、人権を真剣に考えるようになりました。人権に対して興味を持ったのは、三木先生の話からでした。人権学習の時には、必ずと言っていいほど、先生は、自分の家族の話や生徒の話をしてくれました。それまで人権学習で取り上げられる資料を読むときはあまり聞く耳をもっていませんでしたが、先生の話になると真剣に聞くようになりました。その時は気づきませんでした。あれは、先生の言葉の力があつたからだだと思います。

孤立していた私の心に、先生の言葉はすんなりと入ってきました。先生の話聞いたことや、友達とクラスが離れたことから、一緒にいる時間が幸せだということや、家

族のつながりが大切だということが分かりました。悪口を言われていたことや、毎日1人であることが不安だということを誰にも相談することができずに抱え込んでいた私にとって、先生の話は、心の救いでした。

2年生になって「語り合いの人権学習」が実施されるようになって、私は、自分を見つめ直す機会が増え、感想文などにも自分の思いを正直に書くようになりました。しかし、3年生で一番最初に実施された「語り合いの人権学習」での、全体授業の冒頭で、森口先生から「自分の思いを発表してみろ」と言われたときは、本当に嫌でした。

「優等生」という、自分とは違うマスクを被っていた私にとって、人前で自分のことを話すことは、自分から人に嫌われに行くことと同じぐらいの抵抗がありました。でも自分を変えるにはこれしかないと思い、決死の思いで発表をしました。その時の言葉は、今もはっきりと私の中でよみがえってきます。私は、自分と必死に向き合うように次のように語りました。

「人権についての学習っていうのは、小学生の頃からずっとやっていたんですけど、まじめにやろうと思ったのは、中学1年になってからです。…中学1年の頃は、クラスに全く話せる子がなくて、…毎日ずっと黙った生活が続いて、…1年では、担任が三木先生だったんですけど、三木先生しか話せる人がなくて、…すごく悲しかったです。

けど、…中学校全体の人権作文の発表会で発表して、そこから人権学習にすごく取り組むようになって、…人権学習のおかげで、寂しかった期間も乗り越えられて、中学生集会とかも行くようになって、人権学習に出会えてなかったらどうなっただろうと思っています。本当に人権学習に出会えてよかったです。

1組の人たちが発表していた姿がすごく

カッコよく見えて、人権で語り合える仲間がこんなにいたと思えて、すごく一人ひとりの言葉が胸に刺さりました。これからも、みんなが純粋に語り、話し合えるようになればいいなと思います。」

この発言は、私の精一杯の言葉ですが、語り終わった瞬間、心がすっきりしました。それは、自分の言葉に自分が癒やされていたのと、私の切ない思いを必死で聞いてくれている人がいたからです。「こんなにも真剣に私の話を聞いてくれているんだ」と思うと心がいっぱいになりました。

私の人生は、人権学習によって変わりました。三木先生や森口先生、話を聞いてくれたみんなによって変わりました。ほんの少しのことだと思う人もいますが、自分にとっては大きなことです。

「私なんて変わらない」と思っている人達。そんなことはありません。あなたのことを思ってくれている人は必ずいます。手を伸ばせば、必ず誰かが手を握ってくれます。諦めずに手を伸ばし続けてください。そして、私のように1人でもじもじしている人を見たら、声をかけてあげてください。私みたいな人生を送り続けることは、本当に苦しいことです。これからの人生を笑顔に変えられるようにみんなで頑張りましょう。

ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。続いて、後半2本目の意見発表です。板野中学校2年、吉本朱里さん、「未だ残る部落差別」です。よろしくお願いします。

「未だ残る部落差別」

板野中学校2年、吉本朱里

「あの人は地区の生まれだから、結婚してはいけませんよ。」

これは、私の知人が結婚する前、その知人の母親に言われたという言葉です。最初にこれを知った時、私は思わず耳を疑いました。小学校の頃から人権学習を続けてきた私が、初めて本当に身近なところで部落差別を感じる出来事だったので、簡単には受け入れることができませんでした。未だ残る部落差別をなくそうと言いながらも、心のどこかで「もう部落差別なんてなくなった。こんなことを言っても『古い』と言われるだけだ。」と、考えてしまっていたことに気づかされました。そして、そんな私が、どんなに無知だったかを身にしみて感じました。

「無知」であるということは恐ろしいことで、差別はよくそこから広がります。部落差別もそうです。例えば、両親に、「あの土地には、悪人ばかりが集まっているから気をつけろ。」と教えられたとします。すると、「悪人ばかり」という先入観で、そこに住む人を見るようになるでしょう。これでは友人になるのは到底不可能です。それどころか、その人たちは悪人だから差別されても仕方ないと考え、差別の加害者にもなりかねません。また、「同和問題を学校で教えるから差別はなくなるんだ。」と、言う人もいると聞いたことがあります。ですが、そうして無知な人が増えていくことは、自分が差別しているという自覚もなく、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまう人が増えていくことだと私は考えます。だから、まだまだ残る差別の実態を知り、しっかりと現実を直視することが大切だと思います。

無知による広がり以外にも、部落差別の恐ろしさがあります。それは、ある地域で生まれたというだけで、その人たちの顔や名前を全く知らなくても差別してしまうことです。そして、それは同時に不思議さでもあります。



なぜ不思議なのかというと、部落差別には根拠がないからです。根拠があるからといって差別が許されることはもちろんありませんが、知らない人を理由もなく差別するなんて、不思議だと思いませんか。差別している人の言い分は「そこが同和地区だから。」では、どうして、そこを地区としたのでしょうか。決して、悪人が集まっているからではありません。これと言った理由など最初からないのです。おかしいと思いませんか。

何十年も前、そんな部落差別をなくすために立ち上がった人がいました。水平社の人々です。彼らの活動は今も、世界中で高く評価されています。人権を取り戻すために、全国の人々が力を合わせ闘ったすばらしい活動だからです。彼らは、「かわいそう。」と、同情されるのを求めるのではなく、自分たちが行動することで差別をなくすということを、初めて考え実行しました。全国の被差別部落の人々が集まって、「自分は独りじゃない。」ということを確認め合い、初めて希望を持つことができた水平社宣言は本当にすごいと思います。

そして今、差別はなくなったのでしょうか。そんなことはありません。根強く残る差別に打ちひしがれている人もいれば、その差別に敢然と立ち向かっている人もいます。

「あの人は地区の生まれだから、結婚してはいけませんよ。」

私の知人は、この言葉をはねのけて、結婚しました。残念ながら両親はまだ認めてくれているようですが、二人で幸せに暮らしています。私も、もしこんなことがあっても絶対にあきらめずにがんばりたいと思っています。でも、実の親に反対されるのは辛いし、親に差別者になってほしくはないので、差別自体をなくしたいです。

それでは、差別をなくすために私たちがすべきことは何でしょうか。私が考えたことは二つあります。

一つは、「無知」をなくすことです。もっと人権学習に取り組んで、何が差別か、物事の善し悪しを見分ける力を持たなければなりません。私たち自らが人権について学び、それをできる限り多くの人に伝えて差別をなくしていくことです。二つ目は、差別をなくしたいと願う全ての人々が集まって、意見を自由に言える場をつくり、考えを深めていくことです。水平社宣言のときのように、苦しい思いをしているのは自分だけじゃないということを実感できる場が必要だと思うのです。これが実現すれば、独りで思い悩む人はぐっと減るはずですよ。

たくさんの方が集まって、意見を自由に言い合う場をつくることは大変かもしれませんが、差別の現実を知り、人権学習に積極的に取り組むことはすぐに実行できることです。「部落差別なんて、もうなくなった。」と思い込んで、その問題に触れようとしてもしない人の心にも訴えていかなくてははいけません。そして、「今」をより良い世界へと変えていくために、私は努力を続けていきます。

ご清聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。それでは、これから意見発表を通しての討議にうつりたいと思います。発表についての感想や意見交換、

参会者の皆さんの思いを語っていただければと思います。また、前半で発言しきれない人や付け加えるような内容のある人は、これが最後のチャンスとなりますので、是非発表してください。なお、記録の関係上、発表者は、学校名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。

名和中学校 2年 b e 僕は、「人権学習で変わった自分」を聞いて、今いる仲間を大切に、人権について語り合える仲間をもっと増やしていきたいと思いました。

名和中学校 2年 b f 僕は、「未だ残る部落差別」を聞いて、やっぱり最初から理由もなく差別されるのはおかしいと強く思いました。

中山中学校 2年 a f 私は、最初の方の作文を読んで、仲間を大切にするのは大切だと思ったので、いろいろな仲間をつかっていきたいです。



中山中学校 2年 b g 吉本さんの作文を聞いて、本当かどうか分からない話を簡単に信じるのはいけないと思いました。

中山中学校 1年 b h 顔や名前をまったく知らない人を差別してしまうのはおかしいと思いました。

藍住中学校 2年 a 「未だ残る部落差別」の中に、「同和問題を学校で教えるから差別はなくなるんだ」という言葉を、私も学校で聞いたことがあって。保護者がそうやって言っているというのを聞いていたので、人権学習を学んで親とか保護者の人とかにも人権学習をちゃんと理解して行ってほしいです。

東郷中学校 3年 b i 「人権学習で変わった自分」という作文を聞いて、みんなの前で自分の本当の気持ちを言うことは恥ずかしいことだとは思いますが、少し勇気を出して自分の口から伝えることで、友達との絆が深まっていくと思いました。

東郷中学校 3年 b j 私は、誰もが絶対差別に出会わないとは言い切れなと思うので、もう少し一人ひとりが差別の問題と向き合うようにしたいと思います。

応神中学校 1年 b k 知らない相手に差別を、そうやってばらまいていくのはよくないと思います。

大山中学校 1年 b l 差別は人の命をなくすのでいけないと思いました。



応神中学校 3年 o 「未だ残る部落差別」という作文を聞いて、この「無知をなくす」というところに、僕も人権作文を書いたんですよ。そこで僕も、「正しい知識を身につけることが大切」って書いたんで、同じ考

えを持っている人がいたことが、とてもうれしかったです。

中山中学校 1年 b m 私も、無知をなくすことはいいことだと思います。私も無知をなくして、何が差別かということを見極めたいです。

応神中学校 3年 a y 斎藤さんの作文を聞いて思ったのは、やっぱり自分の思っていることを言えるのは、本当にいいと思います。やっぱり、みんなの前で何か言うときとかって、人の目とか世間体とか気にしたりするときがあると思うんだけど、やっぱり自分の思っていることをちゃんと伝えるのはいいと思いました。

屋島中学校 3年 x 「未だ残る部落差別」にもあった、この「無知をなくす」という項目ですが、先ほどあったように、この「同和地区」ということは、そもそも知らなければいい、この考えは僕は間違っていると思います。忘れれば解決する。確かにこの問題だけでとればそうかもしれませんが、他の問題がなにも解決せず、また同じようなことになるのでは、と思います。ですので、みんなを認め、そして平等な立場で接するというのを、僕は心がけていけるようにしたいです。

国府中学校 1年 b まだ部落差別は残っているんで、水平社宣言のような活動が今も大切だと思います。

司会者 前半の内容についても語っていただいても結構です。午前の内容についても語っていただいても結構です。

中山中学校 3年 m 最後の作文で、差別とかに立ち向かっている人とかのことにつ

いて、これを聞いて思い出す話が二つあって、一つが私個人が考えたことなんですけども、雑草のことで、やたら踏まれたり抜かれたりしても、それでも諦めずに伸びようとする雑草の根性のよさとか、もう一つは似たような話なんですけども、b n先生がたまにする「ノミの話」とかが聞いていると、限界を見定めるよりもそれ以上をめざす人っていうのはすごいと思います。

名和中学校 2年 w 質問なんですけど、b n先生の「ノミの話」って何ですか。

中山中学校 教員 b n 「ノミの話」をした、中山中学校のb nといいます。mさんに、そんなに心に入ってくれていたのが非常にうれしいですが。「ノミの話」っていうのは、学級の初め、一番初めに子どもたちに話した話で、「人間の思考回路って、ノミの思考回路に似ているんだよね」っていう話をしたことがあります。ノミって、ピョンピョン、普通1メートルぐらい跳ぶんですよ。それが、ある実験をした人がいて。ピョンピョン跳ぶノミ、1m跳ぶノミに高さ30cmの箱をかぶせてみよう。そうすると、ノミは何cmしか跳べないかというところ、壁にぶつかって30cmのところしか跳べません。これは実験なんですけど、じゃあ箱を取りました。1m跳んでいたノミは、壁にぶつかることによってどうなるかって言ったら、30cmしか跳ばなくなるそうです。本当は1m跳べる力があるノミなんですけど、そういうことをすることによって30cmしか跳べなくなる。じゃあ、本当は1m跳べる力を持っているノミを、また同じように1m跳ばせるためにはどうしたらいいか、っていうのは、実は簡単な話で、その横に、30cmしか跳べなくなったノミの隣に、1m跳べるノミを横で跳ばしたるんですね。すると、ノミが「昔はこうだったな」、

自分で「こうだったな」ということで、同じようにまた1m跳び出すと。人間って、だから、過去の失敗とか過ちだとか、そういう刷り込み、失敗体験によってすごくマイナスイメージを持っているんだけど、本当はすごい力を持っているんだよっていうような話をしたのが、「ノミの話」です。

大麻中学校 2年 b o 無知な人をなくしていくために、これからもこういう会にいっぱい参加して、あまり差別について分かっていない人たちと一緒に、差別についてたくさんのことを学んでいきたいです。

大麻中学校 2年 b p 私は、人権を語り合えるような仲間ができればいいな、そして、無知な人を減らしていきたいなと思いました。

応神中学校 教員 b q 前から失礼するんですけども、この会、18回目になります。18年目になります。当時のことについて話した場面もあったんですけども、当時はこういう集会じゃなくて、近隣4つの中学校で交流会をしました。大麻中学校、板野中学校、上板中学校、吉野中学校でやりました。明るる年に、いろんな中学校があるから、声をかけてもっと広くやってみようやないか、って行ってやったのが、第1回の18年前ですね。そのときの第1回目の実行委員長をしてくれたのが、後ろに座って帽子をかぶっている方なんです。ちょっとマイクを渡してもらえたらと思います。第1回の思いも含めて、どうぞ、いろんな話をしてみてください。ありがとう。

一般参加者 青年 b r こんにちは。板中OBの、第1回実行委員長をしましたb rといいます。長いこと続いとるなと思います。今は地元で青年部の部長として、中学



生友の会とか高校生との会，真友会とかっていうのがあるんやけど，そのサポートとか，青年として社会に訴えていくということをしています。今日はそういう肩書きは置いて，個人的に参加しに来ましたので，せっかくなんで，ちょっとだけ感想も込めて話したいなと思います。話を聞きよって，大人の方の中から「差別心」とか「差別する心」とかいうワードが出たんで，ほれがずっと引かかっと思ったんやけど。みんな，今日，一つ覚えて帰ってほしいと思うんは，僕やは「差別心」とか「差別する心」とかいう言葉は使いません。なぜかと言うと，人間生まれてすぐ，生まれたばかりで，例えば「悪い心」とか，「あいつよりましやな」という心を持って生まれてきているとは思わないんです。僕やが言う表現として「差別意識」という言い方をするんやけども，それはなぜかって言うたら，赤ちゃんのときは，悲しかったら泣いたり怒ったらムスツとしてみたりとか，ほういう心しか持ってないんやけども。段々生きていく中で，みんながほんまに言よった部落差別問題のことに関したら，「部落の人は怖い」とか「お金の汚い」とか，「何か言うたら集団で来る」とか，そういう意識を大人から植えつけられて，知らんまに差別をしてしまうような立場になっていたりしていると思うんよ。僕でも，部落出身やけども，女性に対してだったりとか高齢者に対してだったりとか，障がい者に対してだ

ったり，知らんまに差別してしもうとったり，賤称語っていうて，あえて言いますけど，例えば，知らんまに大人が使いよんとか聞いたことあると思うけど，「きちがい」とかいう言葉とか，絶対知らんまに使いよんと思うんよ。やっぱり，ほういう意識を知らんまに植えつけられていってるっていう意味で，「差別心」とか「(差別する)心」とかいう表現は使いません。ほれと，何て言うかな，僕やも身近で，子どもとか中学生の子とか接していく中で，今ってほんまに何も分かってないんよ。「部落差別って何」，「障がい者差別って何」。なあ，いじめにしてもそう。僕が今，机，バーンて蹴ったら，一昔前だったら，「あれっ」って，「何かおかしいな」って感じたりするんが当たり前だったんやけども。今，バーンって蹴ったって，知らん顔しとったり，ほれに関心がないっていうか，気づかんっていうか，何か世の中っていうか。ほなけん，みんな，「無知，無知」って言よるけど，まさにその通りなんよな。ほんで，やっぱり今，何て言うんかな，人権っていうことに関して，こう原点に戻るっていうか，解放運動っていう言葉があると思うんやけども，自分が生きていく中で，自分の中にある差別意識と向き合っって解放していく。また，そういう差別意識を持った人たちを，自分の思いを込めて語って解放さしていくってことに，原点に戻っていかなあかんのちゃうかなっていう思いを抱きながら，今，運動しています。人の気持ちを分かってあげようとせん，というか，ほんまに分かってないんよな。ほれは，一つ言えば，「人権，人権」っていい言葉やけども，「何でもかんでも人権」，例えば「横におる子，触っただけで，それがDV」，確かにそうかもしれんけど，「おお，そうなんかな」って思う部分もあったりする。何でも人権にしてしもうて，問題にしていくっていう過剰な人権意識っ

ていうのも、たぶんあると、今の世の中ってほういう世の中ちゃうんかなって思います。まあ、ほれが究極になったら、人と関わらんようにするのが一番いいんちゃうんかなって、というような方向にさえ向いていってると思うし、また、そうやって人とコミュニケーションとらんようになることが、やっぱりそれが一番無知につながっていくことと思うんよ。やっぱり、こういう場でみんなで語り合っ、泣いたり怒ったりしながら、その人が何で悩んどんか、部落差別だったら部落差別のどこがあかんのか、というんを、みんなで考えて、それを知識にして生きていかなあかんと思うんよ。ほんで、もしかしたら、きれいごとにつながるかもしれないけども、確かに、例えば間違ったりした発言をしよる子がおったら言わなあかん、という気持ちって大事と思うんよ。けど、僕、職場で、こういう運動しながらも、差別発言があっても言えんのよな。何で言えんかって。やっぱり、みんなも分かっとうと思うけど、自分が攻撃されるんが怖い。自分の子どもが攻撃されるんが怖い。自分の親が差別されるんが怖いけん、言えんのよな。でも、譲れんもんもある。絶対、それを許さん、乗らない。それだけは思う、絶対。心に、芯に持って生きていっきょんよ。言えたら素晴らしいと思うけども、やっぱり、みんなが生きていく中で、何を一番大切にしてほしいかって、自分を守ってほしい、一番に。ほれは、社会人として青年となった僕が、一番みんなに言いたいことかな。でも、まあ、どうするかって言うたら、仲間づくりじゃよな。30人おるクラスの中で、25人が解放されてないっていうか、差別意識を持った、いじめをしてしまう人たちがおる中で言うたって、ほれは怖いよな。でも、仲間をどんどん増やして行って、それが逆転したら言えるよな、シンプルに考えたら。ほういうクラス

づくりをしていってほしいなって思います。こうやって先生やもサポートしていってくれると思うし、地元にはわいやみみたいな、少なくとも残っていっとる青年とか、そういう人らもおるんよ。ほなけん、もし先生に言うてもあかんかった場合は、是非とも僕やに頼ってほしいなって思います。ほれが、今も、もちろん今も差別があるけん運動していっきよるんやけども、ほれがみんなの身近なお兄ちゃん・お姉ちゃんになる青年の役目かなって思っています。ほなけん、偉そうなこととか、格好つけたこととかは全然言えんのやけども、やっぱり、ほれを分かっとうってほしいなって思います。みんな、今日もよう話出よったけど、しっかり話聞いて、ほれでしっかり当事者を入れた会にしていってほしいなって思います。障がい者の話をするにしても、障がい者の人がおらん中で、僕やがなんぼ話したって、これは何の解決にもならんよ。もっと深いところで障がい者の人やも悩んみようと思うし、部落差別にしてもそう。何か、ちょっとこう、ちょっと残酷な話になるけども、今日の会だったら、僕や部落の出身の子は、ちょっと話しづらいかな、みたいな雰囲気も確かにあるかなって嫁と話しもって、思ったんやけども。ほんまに。でも、それをどないかしようと思う気持ちはすごい大事なことで。もっと、例えば20周年記念とかだったら、是非とも僕、講演させてもらって、身近に、頑張んりよる気持ちとかみんなに伝えられたらいいな、って思うけん。やっぱり、当事者なんで、いまだにそう。就職するにしても、「どっから来とん」と言われるのにしても、言いにくい。自分の住所書いたら落とされるんちゃうかいな、とか、そういうん、いまだに感じて生きていっきよるんよ。今でこそ、少ないかもしれないけど、僕やの時代だったら、「どこの中学校なん」って聞かれたら、「板野」

って言うんすら、ちょっと抵抗があった。ほんまにそういうことで、部落に生まれたことによって、ほんなん、もう考えんでええのに、考えてしまう。何の根拠もないこと、それは、こういう世間体とか、例えば言い伝えだったりとか、ほういうんによって段々残ってきとうもの。ほういうんをな、お互いに勉強して、やっていけたらなって思います。まあ、めっちゃ重たい話で、暗くなって、今もドヨンとなつとるけど、それは、僕や伝える側が重たい空気にさせてしまっているのかもしれないけど、ほれをもっと分かり易いように、みんなに分かり易いように言えるように、僕もこれからいろんなところで勉強して頑張っていこうと思うんで。できたら、ほんまに、最後一つ言いたいんは、こういうんで一時だけで終わってしまいようよな。中学生集会のときだけ頑張った。中高生とか高校生集会のときだけ頑張った。青年になったら残ってません、みたいな。ほれも現実なんよ。「あんだけ、ええこと言よったのに」とか、「あの子や、今でもあんだけの気持ち持って頑張れよんだらうか」とかって思うんやけども。できたら、ほんまに、このまま育って行って、大人になっても、こういう会をサポートできる青年になって、ほれが後々、「きれいごとじゃなかったな」って言えるような、みんなになってほしいなって思います。また、機会があったらお話しさせていただきたいと思います。長いこと、すみませんでした。

応神中学校 教員 bq 久しぶりに声を聞けたんですけども、中学校の先生をしよって思うのは、中学校のときは頑張ってるんよな。て言うか、頑張ってくれてるんよ。みんな素直で、よく言うこと聞いてくれるから、頑張ってくれてるのよ。だけど、高校へ行ってどうかって言うと、高校へ行って頑張ってくれている子もいたんだけども、

いるんだけども、高校へ行ったら途端にトーンがスーッと下がっていってしまうってこともよくあって。で、そういう姿をよく見るたびに、「ああ、何がいかんかったんだ



らう。何が間違ってたんだらう。何がたりんかったんだらう」って、ずっと反省することがあったのよね。ましてや高校はいいんだけども、高校の先、社会に出たときに、あれだけ頑張っていた、頑張らせていた子どもたちが、社会に出たらどうしていいかわからない、っていうのを目の当たりにして、「ああ、やっぱりあかんわ。駄目やわ」って思って。社会に出ても、今までの思いのまま、世の中を変えていこうとか、世の中って言ったらでかいけど、自分のまわりぐらいは何とか踏ん張っていこうって思えるような人、場所みたいなものはないんかなってずっと思ったところ。そういう青年もいるんだな、そういう大人もいるんだと。教師でなくてもちゃんと活動している大人がいるんだ、っていうことを目の当たりにすることができたのが、彼の姿の一つでもあるわけです。だから、みなさん、長い目って言ったらおかしいけど、長い目でこれからの人生、どう生きていくんか、みたいなことを考えてくれるとありがたいなって思ったりします。後、30分ぐらいかな。30分ぐらいになるんで、また、司会の人にマイクを預けますけども、確か第4回の実行委員会のときに「何でこの会に参加したんか」みたいなところの問題提起をしてくれた人がいたと思うのよ、確か。

誰か言ったことない。誰か言ったよな。第4回の実行委員会かのかのときに、「じゃあ、何でこの会にきたん」みたいな。そここのころの根っこにあたる部分で話をしていこうよ、みたいなところがあつたと思うんですよ。そういったところも話の話題に出してもらえるといいかなって思ったりもします。もう、フリートークのようになりますけども、司会の人、よろしくをお願いします。

司会者 それでは、誰か、発表したい人はいませんか。

応神中学校 3年 o 僕がこの会に参加した理由は、昨日の夕食会でも言ったように、他の学校の生徒と人権に関して意見交換がしたいのもあるんですけども、友達というか仲間を増やしていきたいなと思って来ました。あと、来たんは、やっぱり3年生になってから人権に興味がわいてきたから来たのもありますし。それを言ったら、恥ずかしながらも中学1・2年生のとき、あんまり、僕、人権学習とか興味なくて。実際、今年3年生から興味もってきだしたんです、僕。だから、さっきも言ってくれたように、今回の会だけじゃなくて、高校生になっても社会人になっても、ちゃんと人権と、人権問題と向き合っていきたいと思えます。

応神中学校 2年 b s 午後の会のIでa yさんが言っていた、「きれいごと」について、ちょっと思ったことを言わせてください。「きれいごと」と言われて、ちょっと悔しかったんですよ、a yさんは。それで、そのときに書いた作文って、本心で書いたことだったから悔しかったんですよ。だったら、それが「きれいごと」に聞こえたんだったら正しいことだと思うんで。それに、作文で誰かに訴えようとするんだつた

ら、「きれいごと」じゃなかったら、たぶん誰に訴えても心にも何にも響かないと思うし。作文で訴えようと思うのに、悪いこと書いても、誰も関心も何も、感情は抱かないと思うので。たぶん、誰もが「きれいごと」を書いていると思うんですよ。それに本心で書いたんであれば、余計、人に伝わりやすい作文ができると、僕は思ったので、ちょっと今、ここで言わせてもらいました。

応神中学校 3年 z 私がこの人権集會に参加した理由は、友達と「一緒に行こう」となったんもあるんですけど、他の学校の子がどんだけ人権についての意見をどんな感じで言うのかなと思って来ました



応神中学校 3年 a y この会に来たのは、僕が1年生のときに、最初は3年生の先輩に誘われて来たんですよ。僕は最初にこの会に来たとき、この会のことをよく知らなくて、大会のときもちょっと不安だったんですよ。2年生のときは、本当に僕が一人だったり、弟と二人だったりとかで、ここに来るのがちょっと怖かったんですよ。何かこう、何て言うのかな、ほんまに、何かこう、少人数で来るんで「なめられとんちやうか」とか思われるんが嫌やなとかあつて。で、今年、来て、吉成先生が応神中学校に来てくれたんもあつて、何かこう、みんなを誘ってくれて。で、ほんまに今年から僕も、いろいろ人権活動を本当に今までより、今までもしてきたけど、今までより、ごっつい取り組んできたなと思って。

本当にこの会に来て、よかったなと思いました。

中山中学校 3年 m 私がよく暗い話ばかりするような気がするんで、ちょっとテーマについて思うことを言ってみたく思います。このテーマを見て思うのは、一番近い例えがあるとしたら、日本の昔話にある「花咲か爺さん」。木に灰をまいたら花が咲いて、思わずそこのまわりにいた人に笑顔がほころぶって感じの話なんですけど。花っていっても、その話に出てきた桜だけじゃなくて、ひまわりだったり、テーマの絵にあるようなさまざまな種類の、さまざまな個性の花だったりあるんですよ。こうして話しているだけでなく、これが終わった後に、いかに私たちが花咲か爺さんみたいな役割になって、みんなを笑顔にさせるかっていうのが、この集会の目的なんじゃないかなって、私は思います。

藍住中学校 3年 u マイク係なんですけども失礼します。私、こういう風に人前で発表するのが苦手。すごい苦手なんですけど、去年、先生に「この集会に参加してみないか」という風に言われたときに、「めんどくさい」という気持ちが最初あったんですけど、いざ参加してみたら、自分の思いや願いを堂々と語っている人がたくさんいて。自分も積極的に何でも話せるようにして変わっていきたいと思うようになりました。もし、このような集会がなかったら、今の自分はいなかったと思います。

応神中学校 3年 b t 私がこの会に参加した理由は、1年生のときに興味がわいたんですけども、何か予定が入って、なかなか行けなくて。で、今年、初めて参加しました。上から目線になると思うんですけど、こんなにたくさん人権について語る人がい

るんだなと感心しました。

国府中学校 1年 b この会に来たのは、友達が「行く」と言っていたのが一番ですが、それと人前で何か言うのがものすごく緊張するので、そういうところが直ったらいいかなって思いました。



応神中学校 2年 b s 来た理由については、私は前からちょっと人と話したり、目を合わせたりするのが苦手だったんです。それで、それをちょっと直したいなっていうんとか、あったんですが。そのときに吉成先生に「人権集会に来ない？」という誘いがあったんで、来て。ここなら、もしかしたら少しコミュニケーションできるんじゃないかと思って来ました。

応神中学校 1年 b k 僕がここに来た理由は、最初は嫌で、あんまり来たくなかったんですけど。ここで昨日と今日で経験して行って、(他の)人が話してくれたことを聞いてて思ってて、ここに来るのもいいなって思いました。

応神中学校 2年 b u この会に参加した理由は、b sさんが言ったように吉成先生に誘われたのもあるんですが、a yさんの弟さんに、「この会に参加してみると、友達がいっぱいできる」と言われたので、参加してみようと思いました。

藍住中学校 1年 a q すみません。話題が変わるんですけど。人権学習で今みたいに、みんながすごい聞いてくれて、意見もちゃんと数は少ないですけど言えるような場所が、今ここにあるじゃないですか。でも、うちのクラスは、毎回と言っていいほど、道徳の時間とかになると、暴言とか悪口が飛び交ってしまうんですよ。それは、最初は男子が言い始めて、段々女子も加わって、みたいな。知らず知らずのうちに、すごい悪口を言っていて。私はそれがあるから、クラスでは今みたいに意見を言っていないですよ。まあ、言わなめかんと分かっただけですけども、言えないんですよ。改善したいというか、自分から少しでもいいから、今この場所にあるみたいに、ちゃんと意見が言い合えるようなクラスとか場所をつくりたいんですけど。何か、もしかしたら、他の学校の他のクラスも、同じようなところがあると思うんですけども。もし、あったら、どんな風にやっているのかとか、どうやってそれを、それに対しての意見とかあったら、聞かせてほしいんで、お願いします。

応神中学校 1年 b v 僕がこの会に参加した理由は、ほとんどは先生に勧められたのと。そのとき正直、「めんどくさー」と思ったけど。そのときに思い出したのが、小学校のときに、ずっと「見て見ぬふりが一番駄目」というのをずっと思ってきて。で、そのときに思い出して、そこで「めんどくさー」とか「しんだー」とか思ったら、それも「見て見ぬふり」になって、差別していることになってしまうので、それも真剣に考えて参加しました。

応神中学校 1年 b w 僕がこの会に参加しようと思ったのは、先生に勧められたけど、一回来たたらちょっと楽しかったので、

来つづけてみました。

応神中学校 1年 b x この人権集会に参加した理由は、吉成先生に勧められたのもあるんですが、ちょっと人権学習をもっと知りたいという気持ちがあって、この会に参加しました。



応神中学校 1年 b y この会に来た理由は、吉成先生に勧められたのもありますが、もっと真面目に人権学習に取り組みたいと思ったからです。

藍住中学校 3年 a p さっき、a qさんが言うたことで、何て言うたらいいのかな、「いい雰囲気をつくるには、どうすればいいか」という質問で、私は他の人に任せっきりで、雰囲気とか、そんなんつくってもらうのを待ってるんじゃないかと、自分からつくっていったらいいなと思いました。

吉野中学校 2年 b z 私がこの集会に参加しようと思ったのは、私のまわりにはあまり真剣に人権学習に取り組んでいる人がなくて、何か、部落差別と聞いてもピンときていないとか。私も、あんまりきていなかったりするんですけども、ここだったら、真剣にみんなと人権学習ができるかなと思って参加しました。

応神中学校 1年 a r 僕がこの会に参加した理由は、僕のクラスには、小さいいじ

めがいっぱいあって。その転校生は必ず一回はいじめられるぐらいのクラスでした。

「その転校生は友達がいらないからいじめられるのかな」と思って、「僕が一番最初の友達になってやろう」と思って。でも、僕はそういうことができなかつたので、この人権集会に来たら、友達になる方法が分かるかなと思ってきました。

屋島中学校 3年 x また話を戻して悪いのですが、さっき、「暴言の飛び交うクラス」という話を聞きました。暴言のような悪い言葉を使うと、またそれを考えたり、頭の中で思ったりするだけでも、『「言霊」というのがある』と新聞に書かれていました。良い言葉を使うと段々良い人になって、悪い言葉を使うと。これが本当にあるかってことは分かりませんが、少しでも良い言葉を使うのは大事だと思います。で、悪い言葉を使う人がたくさんいるクラスの中でも、必ず一人ひとりで見れば、「人権は大切」と考えている人もいるはずですよ。でも、それが、みんなに流されて、そんな悪いことをいっている。それだけだと思います。だからこそ、僕たちが学んだ考えを、一対一ぐらいで話してもいいので、少しずつでも広げていって、段々その人権について良い考えをもっている人数を増やしていけたらいいなって思いました。

藍住中学校 3年 d さっきの a q さんの答えというか、私なりに思ったのは、「雰囲気をつくりたい」ってことやけど、やっぱり自分だけでは無理なので、そういうときこそクラスで語り合いみたいなのをしてみたらどうですか。

応神中学校 3年 ca この集会に参加した理由は、吉成先生に勧められて来たんですが、この会に参加したことで、みなさん

の人権に関する考えが分かったので、参加してよかったなと思いました。

藍住中学校 3年 ao さっき、藍住中学校1年の a q さんの質問なんですけど、私は、自分がクラスの全員と仲良くすればできると思います。クラスの全員と仲良くなって、自分がクラスの中心にいて、自分の意見もまわりの子はすごい聞いてくれるようになるし、理解してくれるようになると思うので、自分が思っていることを相手により深く知ってもらえるようになると思うんですよ。だから、クラスの中心に立てるように自分から積極的に仲良くなっていったらいいと思います。



吉野中学校 3年 n 私も藍住中の a q さんの話を聞いて思ったことなんですけど、他の a q さんの意見に対して言ってくれた人とは考え方が違うかもしれないので、「はあ」って思うかもしれませんが。私のクラスも同じようなことが多々あるので、すごく気持ち分かります。でも、その悪口を言よる一人ひとりと話すこともあるんですけど、もう「ほんまに悪口言よったんか」っていう位、いい人もおれば、「ああ、この人は悪口を言ってしまう性格の人なんやな」とか「そういう考えをする人なんやな」と思う人もおるんですよ、クラスには。でも、それは、言ってしまえば、その人の性格や育ち方もあるので仕方がない部分もあるんですけど、私もクラスの子がどういう行動をとるかとか、何と言うかとか、全然見当もつか

ないし予測もできないので、ちょっと問題放置みたいに聞こえるかもしれませんが、a qさんも、同じようなクラスに私もいるので、一緒に解決策というか良くしていく方法を一緒に考えていきましょう。

藍住中学校 2年 a さっきのa qさんの質問に答えるみたいな形になるんですけども、道徳の時間とかに自分から発言して、まわりの人が見習ってくれるような感じで発言したり、人権のことをちゃんと真剣に考えているっていうような発言をたくさんしたら、他の人も見習ってくれると思います。

大山中学校 1年 c b 僕は、身近に差別やいじめがあっても、目を向けることができないので、しっかり目を向けるようにしたいです。

東郷中学校 3年 c c 今年、この会に初めて参加させてもらって、みんなの意見を聞いていて、いろいろ考えさせられる部分もあったし、堂々と発表している姿を見習いたいと思いました。

応神中学校 1年 a s この集会に参加したのは、一つは行ってみようかなという興味と、さっき、a rさんが言ったように、僕のクラスでは小さいいじめがよくあって。ここに、行ったら、解決方法が見つかるかなっていうのと、さっきからよく出てきていますけど、吉成先生に誘われたので、ここに来ました。

応神中学校 3年 p この大会に参加して、たくさんの人の意見とか発表、作文発表してくれた人とかの気持ちとか決心に触れて、いろんな勇気とかもらって、学校とかに帰って、うちのクラスも人権を真剣に考えな

い人がいるんで、a qさん、今日、この大会とかでもらった勇気とか、そういう思いとか、そういうのを自分のクラスで、発表ではないけど広げていったらいいと思います。

徳島北高校 3年 c d さっき、藍住中学校の方からクラスの問題が出たんですけども、僕の、僕中学3年間、ずっと同じクラスだったんですけど、みんなと。その中で、1年生のときは、みんな、ばらばらだったんですよ。で、人権学習をする中で、それだけじゃなくて、一人ひとりの意見に対して、みんながどういう風にとらえていっていかってというのが大事で、それをずっと続けてきて、3年になってからは、もう、ほぼずっと本音を、本音でみんなが語り合うような、そんな授業をしてきました。で、僕は今、高校3年生になったんですけども、その中学校のときのメンバーとはすごく仲が良くて。やっぱり自分の意見だったり相手の意見だったり自分なりに解釈して、それを自分の思うことをその子にちゃんと伝えてあげるっていうのを続けていったら、いいクラスができると僕は思っています。なんで、頑張ってみてください。



応神中学校 3年 a y 今年で最後なんですけども、やっぱりみんなの意見とか聞いてたら、やっぱり心に響くんですよ。何か、すごい昔の辛い過去とかが自分の思ってることに変えてみんなに広めていくとか、やっぱりいいと思います。で、やっぱり、み

んなは嫌々来よる子もおるけど、嫌々来るだけでもいいと思います。何かこう、聞くだけでもいいので、本当にこの会に1年生の子もおるけど最後まで来てほしいし、僕はこの会に来て、本当にうれしいです。

応神中学校 3年 o 僕が今回来て、この会に来て思ったのは、何て言うか、人権についていっぱい意見を交換できてよかったと思います。僕はこんなにペラペラしゃべってますけど、実は今回来るのが初めてなんです。1年生のときも2年生のときも来てません。人権についても、あんまり勉強してませんでした。今日来て、本当に思ったのは、もっと早く、1年生のときも2年生のときも真面目に人権問題に取り組んでいたら、と改めて思いました。で、ちょっと急に話が変わるんですが、藍住中学校のa qさんの質問について、僕の考えは、作文発表にもあった、辰巳さんのにもあったんですけど、勇気を出して自分の考えを伝えていったらいいんじゃないかなと、僕は思います。頑張ってください。



藍住中学校 1年 a q さっきの問いかけに対して、答えてくださった先輩方、ありがとうございました。さっき言ってくださったことを、一つ一つ実行していこうと思うので、良くなるようにするので、ほんまにありがとうございました。

藍住中学校 3年 t マイク係なんですけどすみません。この人権集会に来た理由は、

森口先生に2年生のときに誘われて来たっていうのもあるんですけど、2年生のときに来て仲の良い子ができて、友達ができて、今も連絡を取り合っている子とかもいるんですよ。で、その子とかとたまに人権の話をしたり、そういう話ができる友達が一人でも多くできるかなって思って、また今年も参加させてもらいました。なので、もしよかったら話しかけてください。

名和中学校 2年 l 僕は、今日、みんながどんな気持ちで人権学習をしているか知って、僕はこれからもっと真面目に人権学習をしようと思いました。

名和中学校 3年 k 僕は、1年のときから鳥取県から来て、この会に参加してきました。でも、来年は僕は鳥取県から来ているのでこの会には参加できないけど、この会でみんなが本気で人権学習というか弁論というか、そういうしゃべることを頑張ってる、そういうのに勇気もらったので、僕も高校に行っても人権学習とか頑張ろうと思いました。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、この辺りで、全体会午後の部を終了したいと思います。みなさん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに、人権問題を更に深く考え、各学校に持ち帰ってください。それでは、全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました。それでは、この後、引き続いて、閉会行事にうつりたいと思いますので、準備ができるまでの間、しばらくお待ちください。